

1. 開会 進行：青田生涯学習課係長

2. あいさつ 西本 教育長
井上 社会教育委員長

3. 議事

「平成30年度事業の実績及び平成31年度計画案について」
各課長、館長、所長より説明（35分間）

【質疑応答】

（井上委員長）

- ・では、説明のあった「平成30年度事業の実績及び平成31年度計画案について」、御質問、御提言のある方は挙手をお願いします。

（西田委員）

- ・老人クラブ会員の活動については、青山地区だけでも年間延べ1,000人の方が地域の活動に参加する等、多くの会員が参加している。一方、高齢化が進み、平均年齢が現在75～80歳になってきており、役員のみならず手がなくなっている。今後、高齢化が進み、活動できる人が少なくなる中、社会教育活動にどのように取り組んでいくか、方策をお聞きしたい。

（國井委員）

- ・老人クラブを2年間経験したが、行事が多いように感じる。役員を選出するのにもきびしい状況がある。

（井上委員長）

- ・老人クラブ等の地域活動の人材を育てるために高齢者大学が設置され、地域の活動につながるように行政が支援をしているが、この点についてはいかがか。

（近藤生涯学習課長）

- ・高齢者大学の学生に対しては、各地域のボランティアとして活躍していただくことを現在もお願いしている。多くの方が大学に入学し、活動に参加していただけるように、大学で学んだことが結果として地域の活動につながるよう取り組んでいるところである。

（井上委員長）

- ・地域活動の一方的な押し付けはできないが、大学のカリキュラムの中に老人クラブ等の活動につながる内容を取入れてみてはどうか。

（近藤生涯学習課長）

- ・大学のカリキュラムには地域のボランティア活動へのきっかけづくりとなる内容も取入れているところであるが、大学院では、グループで自主的にテーマを決めてボランティア活

動を実践する専門講座もある。例えば介護施設、老人福祉施設での活動体験などもある。このような活動が地域での活動に活かされることを期待している。

(國井委員)

- ・三同教 50 周年ということで、様々な記念事業が実施されているが、その中にスリーサポーターズ登録制度があったが、この制度の状況はどのようになっているか。また、ロゴマークの募集状況はどのようになっているか。

(辻田人権推進課長)

- ・スリーサポーターズについては、現在、約 60 名の会員数となっている。内容的には、ホップ、ステップ、ジャンプということで活動の度合いに応じて 3 段階のランクに分かれている。初めのランクのホップは情報提供、上のランクのジャンプになると実際に企画していっしょに活動することになる。登録制度として、毎年取り組んでいるところである。三同教のロゴマークについては、小学校、中学校、高校の P T A、大人の方から約 2,000 点の応募があり、選定委員により選定し、三同教の 50 周年記念事業としてロゴマークが完成した。現在、封筒やチラシなどに記載し活用している。

(石田委員)

- ・最近のニュースでも気になったのが、虐待の件である。児童相談所に相談があった件数が、2018 年度で 13 万件ということを知りびっくりしている。おそらくその倍の 26 万件くらいが全国で起きているのではないか。人口の割合で計算すると 100 人に 1 人が虐待にあっているのではないかと思う。三木市の状況がわからないが、三木市には、児童相談所はあるのか。

(奥村教育振興部長)

- ・明石市に県のこども家庭センターがあり、児童虐待について、全般に対応している。三木市では、子育て支援課が中心となり、学校教育課や学校と連携して対応している。状況により保護者と面談したり、子どもの追跡調査をしている。

(石田委員)

- ・500~600 人の学校であれば、5~6 人の虐待が予想されると思う。表に出てこないものもあると思うが、現実に三木市ではあるのか。

(奥村教育振興部長)

- ・虐待については、個人の情報であるため、細かい数字は出せないが、小学校、中学校においては、現実としてある。子どもたちを細かく観察しながら、虐待も様々なケースがあるので、どのような虐待が予想されるのか、教職員も絶えず研修し、実践し、市の子育て支援課につなぎ、必要があれば、県のこども家庭センターに通報し、状況により子どもを県が保護することもある。

(石田委員)

- ・全国的に見て、三木市は、虐待は少ない方なのか。

(奥村教育振興部長)

- ・全国的に見て、少ない方であると考えている。

(富田委員)

- ・学校においては、成長期の子どもに家庭で食事が与えられていないことはないか、特に給食の集金が滞っている時などに注意している。周囲からの情報などにより、教育委員会、子育て支援課に報告し、連携して状況を把握してサポートしたことがあった。

(今枝委員)

- ・小学生は発達年齢の幅が広い。本人が伝えることが難しいのできめ細かく健康面を含めて観察している。発育測定、特に体重の変化について極端に減っていないか注意している。学期に一回アンケートを実施し、気になる児童には、担当が1対1で面談し、ゆっくり話を聞くようにしている。気になる案件については、学校教育課、子育て支援課など関係機関のアドバイスを受けながら取り組んでいる。

(井上委員長)

- ・三木市では、35年ほど前から児童虐待の対策に取り組んでいる。要保護児童対策地域協議会が設立されており、毎月、実務者の会議を行っている。その中で個別ケース会議も年間20回程度、それぞれの学校や地域からあがってきた問題を協議している。要保護児童のいる家庭には年間400回程度、訪問活動をされている。

(國井委員)

- ・別所ふるさと交流館のテニスコートについて、平成29年7月1日にオープンしているが、利用状況はどのようになっているか。

(近藤生涯学習課長)

- ・完成した当初は、29年度途中から約20件の利用があった。コートの草刈は職員が行い、公民館等でテニスコート利用の広報をしているが、30年度の利用は少なくなっている。

(井上委員長)

- ・池田委員からユニークな取り組みについて、皆さんに提案説明がある。

(池田委員)

- ・「学校ごっこ」という事業を計画している。事業内容がまだ確定していないので、資料には、後援団体、開催場所も予定として記載しているのでご了承いただきたい。兵庫県いきがい創造協会の地域リーダー養成事業で「ふるさとひょうご創生塾」という事業があり、私は、その23期の塾生として活動している。平成30年度は座学でコミュニティづくりについて勉強してきたが、平成31年度は実践活動として、地域のコミュニティ意識の醸成というテーマで塾生4名により活動することになった。コミュニティ意識について、積極的に地域のために活動することや、地域を良くするために市民自らが決定権を持って活動するというような意識を高揚するという目的で企画検討した結果、現在、播磨町で実施されている「学校ごっこ」をすることに決まった。通常、学校は、大人が先生で、子どもが生徒であるが、資料の表紙のように子どもが先生をするなど、地域の普通の住民が先生になり、生徒になるという内容で「学校ごっこ」を実施する予定である。実施方法としては、第一段階として、我々塾生のメンバーが、地域の人の中から先生を掘り起し、第二段階として掘り起した先生方に事業内容を説明し、第三段階として広報、紙媒体を使って「学校ごっこ」の募集を行い、第四段階として夏休み頃に「学校ごっこ」を実施する予定である。今

日、ここで説明させていただいた理由は、社会教育に関わる内容であるため、社会教育委員の皆さんに知っていただきたかったことと、御助言、御協力をいただきたかったので説明をさせていただいた。

(井上委員長)

- ・子ども会の代表として池田委員には出席いただいているが、子どもを中心とした社会教育活動の一環として、このような事業を立ち上げ、実施されようとしている。今後、この良い取組について検討を加えながら実施されようとしているので、皆様に賛同をいただきたい。この取組に対しては、三木市も三木市教育委員会も後援すると思われる。社会教育委員会としても後援することに御同意いただきたい。

(國井委員)

- ・協賛、協力等は決まっているのか。

(池田委員)

- ・現段階では未定である。今後、後援等を依頼する予定である。

(西田委員)

- ・予算はどのようにされるのか。

(池田委員)

- ・募集の資料等のために予算が必要となる。講師に関してはボランティアでお願いする予定であるが、印刷物等で予算が必要となる。とりあえず北播磨県民局に行こうと思っている。

(井上委員長)

- ・人権推進課で補助する方法はないか。

(辻田人権推進課長)

- ・PTA等の活動に関しては、人権サポート事業を活用することができるが、上限が2万5千円となる。検討していただければと思う。

(佐藤委員)

- ・「学校ごっこ」に関して、活動内容についてどのようなイメージをされているのか教えてください。

(池田委員)

- ・市外の他地区で実施されている情報等を集めているところであるが、地域の歴史を知り愛着をもっていただく内容、いろいろな方の体験談を聞き一歩踏み出してもらう内容、楽しく学べる内容等を組み合わせてカリキュラムを考えている。午前中での開催を予定している。

(佐藤委員)

- ・世代を逆転し、子どもが大人に教える機会、例えば小学生から世の中がどのように見えているかを聞くというような内容もおもしろいと思う。

(井上委員長)

- ・関西国際大学の学生も地域のための活動をされていると思うので、その点でも御協力をお願いできたらと思う。

4. その他

- ①平成31年度 東播磨・北播磨地区社会教育委員協議会事業計画
- ②平成31年度 兵庫県社会教育委員協議会関連日程予定
- ①及び②について青田生涯学習課係長から説明（6分間）

5. 閉会

あいさつ 山本副委員長

～午後4時20分終了～

記録者 生涯学習課 金子高士